人間性復活

第180号

人間性復活とは、物質偏重の現代文明の中にあって、人間の精神生活を重んじて、その復権を図ることにほかならない。

上司の優越感と劣等感（下）

一般社団法人　人間性復活運動本部　理事　正田泰基（まさだやすき）

地位も名誉も金銭も、充実した仕事も手に入れて、傍から見たら幸せそのものに見える人も、実際に話を聞いてみると「私は全然幸せではない。私が普段どれだけ気を遣って生きているか、誰も理解してくれない」と言う人は多い。「あの人はこの役職につくまでは、本当に良い人だったのに、この役職についてから、すごく偉そうで嫌らしくなった。昔はあんな人じゃなかったのに。やっぱり出世すると下々の気持が分からなくなるのかね～」などと言われる人が、実は下々の人の気持に過敏になるほど気を遣っているのはよくあることである。

人によって、このような劣等感が発動する地位は異なる。ある人は、課内のリーダーになった時にそのような状態になるし、ある人は課長になった時に、ある人は役員になった時に劣等感が発動する。一般的に、役職が高くなればなるほど、プレッシャーが大きくなるので、劣等感が発動する可能性は高くなる。

また、優越感や劣等感とは全く別の次元だが、鈍感であることも軋轢を生みだす。自分に才能があって、何の苦労もなく出来る事柄について、部下に能力がないと、「なぜこのような簡単なことも出来ないのか」と悪気なく部下を責めたててしまう。また、自分の若いころの常識をアップデート出来ずに悪気なくハラスメントを行ってしまったり、悪気なく自慢話や昔話をえんえんとしてしまったりすることもある。自分が責任ある立場にあることを忘れて、「あいつは嫌いだ」「面倒くさいからやりたくない」などと部下の前でしゃべってしまったりもする。更には、「上司と部下の関係など抜きにして腹を割って話をしたい」と考え、上司は腹を割って話しただけのつもりだったのに、部下のほうは傷ついただけで終わってしまうこともあるだろう。

悲しい話ではあるが、人間は得てして、優越感・劣等感・鈍感さの全てを併せ持っている。だから自分が上司になった時に、優越感・劣等感・鈍感さから来るマイナスを、多かれ少なかれ全て発揮している。自分が上司になった時は、これらの三つの要素を常に意識して、客観的に自分を見るようにしたいものだが、下手な反省ばかりしていると、どんどん劣等感が強くなるから気を付けたい。

自分が、上司から何か不愉快なことをされた時には、「実際には上司のほうが、私よりも更に不愉快な思いをしているかもしれない」という客観性を出来れば持ちたいものである。　以上（終わり）

会員の『声』　第8回

地域活動の中で

福島支所（福島県）　佐藤孝市（さとうこういち）

地域活動の中で、地区区長としての任期中にコロナ感染者が増加し、市よりコロナ対策で自粛要請が来ました。密集・密接を避けるため、イベント・集会の自粛等三の密を避けてくださいとのことでした。また、地域の区長会活動に付随する地域防犯協会・青少年育成推進協議会等も三密を避けるということで、集会中止・自粛となり、回覧により進めてきました。今迄、行事・会議が終わった後の懇親会は、当然中止となりました。人とのかかわり方や地域活動の在り方が、これまでと大きく変わってしまったことを強く実感しました。

また、青少年育成推進協議会で学区内のパトロールを実施することになっており、夏休みの七月下旬から八月上旬にかけて、学区内の小学校・中学校の見回り、そしてゲームセンターなど夜の七時から九時頃まで見回りをしました。例年とは違って、遊興施設の中までは入らず距離を置いての行動で、各自もコロナ感染予防のために、人ごみの中に長くいないようにと細心の注意をしながら確認をしました。

一方で、地域の方から、他県ナンバー車が往来は自粛なのに近くの工場団地内の道路で寝泊まりをしているようなので、気持ちが悪く不安であると相談に来られました。それに対して、如何なものだと苦慮しておりましたが、地域防犯協会会長として警察に相談し不審車両に対処してもらいました。今は、安心して農作業が出来ると言っておられました。

今迄、当たりまえであったことがコロナ禍により様々な影響を受け、これからの人との付き合い方について、感染予防行動を優先しながらも、如何に進めていくかではないかと感じています。今後、これまで豊かな経済の中に成り立ってきた地域活動を、地域の良さである他人を思いやる心を大事にしながら、人と豊かに向き合う人間関係を築いていくべく取り組んでいきたいと思っています。

以上

人間性復活運動本部

映画『男はつらいよ』の車寅次郎（くるまとらじろう）の人間味から

福岡支所（福岡県）　安部田良生（あべたよしお）

この映画の主人公である車寅次郎は、東京都葛飾区柴又で生まれた。中学生の時、父親とけんかをして家を飛び出し、テキ屋となって、18年ぶりに柴又の帝釈天の参道にある叔父夫婦が営む団子屋に帰ってきたところから映画の第一作目が始まる。

それ以降、俳優渥美清さんが主演された作品は、1969年（昭和63年）から1995年（平成7年）までに、お盆と年末年始の年2回のペースで作られ、合計48作品にもなった。ファンは男性・女性に限らず、インドなど海外でも上映され、日本に居る外国人にもファンが多い。物語の多くは、テキ屋を生業とした寅次郎がふらっと旅先から柴又に帰って来て、毎回登場するマドンナに一方的な好意を抱く寅次郎・叔父夫婦・異母兄弟の妹さくら夫婦・甥の満男・裏の小さな印刷工場の社長・それに加えて旅先で出会う人々との心の交流が描かれている。

寅次郎が好意を持つマドンナとはうまく運ばないことも多く、またひとつの所に落ち着けない自分を知る寅次郎は、最後は自分から身を引くことになるのだが、私はその寅次郎の情に振り回されない潔さに共感するのである。また、旅先で知り合った人達、例えば、バス停のベンチに座っている老婆でも、あるいは日本画の大家でも、どのような人であってもまったく同じように接し、その人々の心のなかに入っていくことの出来る寅次郎の純粋性。そして、相手を気遣い、別れ際に「幸せになりなよ」と声を掛けるその大きな優しさに私は心を動かされ、この作品は単なる人情喜劇ではなく、人間の生き方について考えさせられる作品であると思っている。

高校生の甥の満男が、寅次郎に「おじさん、人間は何のために生きているのかな?」と尋ねると、「お前も難しいことを聞くなあ、それは人間が生きているうちに何回かは、嗚呼生まれてきて良かったなあ、と思うだろう。そのために生きているんだ」と話す。

またある時、満男に向かって、「お前最近元気ないな、ハハア、お前恋してるんだろ、話してみろ」と強引に投げかけ、「おじさん、俺は恋愛をする資格はないんだ。恋愛は美しいものだろう、俺は不潔なんだ。彼女の唇や胸元を思うんだ」と語る満男に、寅次郎は恋愛中の父親のことを話してやる。「満男、お前の親父が田舎から出てきて裏の印刷工場で働き、じっとさくらに恋をしていた3年間のことを考えたことがあるか、そんな親父を不潔だと思うか?　思わないだろう」と。また、満男がどうして勉強をしなくてはならないのかと尋ねると、「俺は勉強をしてこなかった、勉

強をすると道筋を立てて物事を考えることが出来る」と答える。シリーズの後半に、甥の満男の中で、その存在がだんだんと大きくなる寅おじさんとの心の交流が何度見ていても楽しく微笑ましい。そしてまた、映画の中に出て来る昭和の風景と、明るい家族の団らんの様子も心安らぐ思いがする。

『男はつらいよ』の脚本を書き、監督をされた山田洋二監督は、2作目で終わるつもりだったと話されていたのをテレビジョンで見たが、新作は続々と作られ、平成30年には、22年ぶりに50作品目が公開された。作品数では、30作品目で「主人公が変わらない世界最長の映画」としてギネスブックに載った。なぜ、この『男はつらいよ』はこれほど長く続いたのか。中学生の時に家を飛び出し、テキ屋を生業としている寅次郎は自らを渡世人と言い、若い時は「お控えなすって」とタンカを切る場面もあるが、シリーズの中で歳とともに変わっていく寅次郎の姿と、それでいて何時までも変わらない寅次郎の純粋さや暖かい人間味が、何時まで経っても私を『男はつらいよ』に誘う。

渥美清さんが亡くなって早25年が立つが、今も私のような寅さんファンは数多い。そして、おそらくこれから先も寅さんの人間性に惹かれた新たな寅さんファンが増えていく事だろうと思う。

最後に、世の中に『寅次郎』のように純粋で思いやりがあり、心のあったかい人が増えていったら、より人間性豊かな明るい社会になっていくのではないだろうか。そうした社会に少しでも近づくべく、私も普段から取り組んでいきたい。

以上

社会福祉法人 共助会

社会福祉法人共助会は「利他の精神を持ち、共に助け合い、共に栄えること」を理念として昭和55年(1980年)に東京都八王子市に特別養護老人ホーム福寿園を開園し、現在では5施設を運営中です。

超高齢化社会を迎える中、ひとりでも多くのお年寄りが安心と充実の中で日々の生活が送れますことを念願し、スタッフ一同、やさしい心とていねいな言葉、おひとりおひとりの人間性を尊重した、きめ細やかなケアの実践に努めています。

入居者様、利用者様
募集中！
お気軽にお問い合わせ
ください♪

特別養護老人ホーム福寿園みなみ野

共助会5施設運営中

■特別養護老人ホーム　福寿園みなみ野
東京都八王子市みなみ野6-21-1
Tel：042-635-5015

■特別養護老人ホーム　福寿園横浜
神奈川県横浜市神奈川区菅田町2331-1
Tel：045-474-1180

■特別養護老人ホーム　福寿園ひばりが丘
東京都西東京市ひばりが丘3-1-8
Tel：042-452-1818

■介護老人保健施設　サンシルバー町田
東京都町田市相原町2373-1
Tel：042-770-2551

■認定保育所　オガール保育園
岩手県紫波郡紫波町紫波中央駅前2-3-9
Tel：019-613-3095

人間性復活
2022年3月1日発行
第47巻第1号(通刊180号)
編集者　星　博信

発行所　一般社団法人 人間性復活運動本部
〒150-0046 東京都渋谷区松濤2-15-5-401
tel：03-3460-9441　fax：03-3460-9466
mail：info@ningensei.or.jp
http：//www.ningensei.or.jp/
「人間性復活」は特許庁に商標登録されています。
登録番号：第4752840（平成26年7月29日再取得）